

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
大原簿記情報医療 専門学校		昭和57年3月1日	中澤 泰吉		〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅三丁目20番8号 (電話) 052-582-7733		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 名古屋大原学園		昭和57年9月28日	理事長 村松 紳年		〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅三丁目20番8号 (電話) 052-582-7733		
目的	本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い、次に掲げる能力の育成を目的とする。 (1) 職場若しくは实际生活に必要な簿記、税務の専門能力 (2) 職場若しくは課程において必要な一般常識及び倫理観を持ったバランスのよい能力						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
商業実務	商業実務専門課程		公務員科		平成22年文部科学省告示第153号	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2160	1902	550	210	0	0
生徒総定員		生徒実員	専任教員数		兼任教員数		総教員数
160人		145人	10人		9人		19人
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験と課題の提出を斟酌		
長期休み	■学年始め: 4月1日 ■夏季: 7月から8月の内5週間 ■冬季: 12月から1月の内6週間 ■学年末: 3月の内3週間			卒業・進級条件	所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び品行を斟酌して決定する		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 個別面談、保護者面談、家庭訪問			課外活動	■課外活動の種類 野球、バレー、吹奏楽等 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 各県庁、市役所、税務署等 ■就職率 <sup>※1</sup> : 96.7 % ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 89.4 % ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)			主な資格・検定等	漢字検定 簿記検定		
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 1.47 % 平成28年4月1日時点において 在学者 136名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において 在学者 134名 (平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更のため。 ■中退防止のための取組 担当教職員等による定期的な個別面談を実施している。						
ホームページ	URL: <a href="http://www.ohara.ac.jp/nagoya/obs/index.html?tiku=n&amp;school=obs">http://www.ohara.ac.jp/nagoya/obs/index.html?tiku=n&amp;school=obs</a>						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校学生の主な就職先である地方公共団体や国の行政機関と関係のある法律関連分野等の企業・機関と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を習得した即戦力となる人材を育成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成に際しては学内に「教育課程編成委員会」を設置し、企業等から選任した委員(外部委員)と本校専任職員(内部委員)によって業界最新情報を反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
中田 ちづこ	名古屋市議会	平成28年4月～30年3月	①
田端 敬 則	名古屋市瑞穂区社会福祉協議会 事務局長	平成28年4月～30年3月	①
東 寛 子	一宮市役所	平成28年4月～30年3月	③
中澤 泰 吉	大原簿記情報医療専門学校 校長	平成28年4月～30年3月	
東 克 俊	大原簿記情報医療専門学校 主任	平成28年4月～30年3月	
豊田 守 希	名古屋大原学園 就職サポート 部長	平成28年4月～30年3月	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

平成28年度第1回:平成28年6月30日

平成28年度第2回:平成28年12月15日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・「街づくり」とはなにかを学習できる機会盛り込むべきという提言をカリキュラムに反映

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職務遂行において法律を扱う業界の実践例を習得するため、私法の一般法たる民法を中心とした幅広い業務知識、業界知識の教授について理解・協力を得られる企業を選定する。

また、名古屋大原学園の教育方針を理解したうえで、業務内容や教員の指導力向上に対しても提言を頂けることを考慮して連携を要請する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

①法律概論の授業実施に関して、企業等と協定書または覚書等を締結し、校内通常授業への講師派遣、校内実習授業への講師派遣、企業等の施設を利用した実習授業実施等において連携している。

②当然ながら当校専任教員も該当分野のプロフェッショナルであるが、企業等の第一線で活躍する専門家が直接学生を指導することで圧倒的な臨場感が生まれるので、学生の習熟度向上に役立たせる。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
民法	私法の基本法たる民法が、実生活の中でどのように関わっているのか。契約、相続など実生活と深く関わる法律知識の習得を目的として講義・演習を行う。	株式会社ウサミハウス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

求められる専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身に付けなければならない。そのために教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を招いた実践的な知識・指導スキル研修の環境を整えている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

企業等から講師を招いて実務に関する講義を頂き、業界情報について教員研修を実施している。

②指導力の修得・向上のための研修等

企業等から講師を招いて講義をしていただく場合、当日授業内容の事前確認、授業進行方法の確認、授業後反省会を通して教員の指導スキル向上に役立てている。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

消費者保護関連の法規制について実務業務内容を学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

高齢社会における行政や企業活動で配慮すべき内容を福祉の視点から研修する予定

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
(2)学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか
(3)教育活動	①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
(4)学修成果	①就職率の向上が図られているか
(5)学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか
(8)財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11)国際交流	①留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

企業等から参画した委員の意見につき、以下の項目について本年度の行政法律科の教育活動その他の学校運営の改善に活用を図った。①「入学者全員にiPadを配付し、授業活用に組み込んでいる姿勢は評価できる。ワード、エクセル、パワーポイントができることは当然であるが、最近の職業現場ではイベント説明や見積もり作成などで情報端末を活用する場面が増えており、これに対応する社員教育をどうするかが大きな課題になっている。学校教育では単に操作方法をマスターするだけでなく、情報端末を活用した新たな営業手法やプレゼンテーション企画などを提案できるビジネス能力を養成するよう発展させてほしい。」という意見を受け、タブレット型端末をつかったプレゼンを多く取り入れた授業内容にした。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
間野友長	株式会社MACコンサルタンツ FP・相続事業承継対策部 理事	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
市川紘二	学校法人安達学園中京高等学校 元事務長	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日	学校運営に関する専門家
山本和夫	株式会社ユニモール 常務監査役	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
春木亨	旭情報サービス株式会社 マネージャー	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
宇佐見栄二	株式会社ウサミハウス 代表取締役 (平成5年度卒業生)	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日	卒業生
速水亮晴	医療法人大真会 大隅病院 (平成23年度卒業生)	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL:[http://www.ohara.ac.jp/info/pdf/assessment\\_n\\_obs.pdf](http://www.ohara.ac.jp/info/pdf/assessment_n_obs.pdf)

## 5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。

また企業等との連携による教育活動改善を活発にし、専修学校に対する社会的信頼を高めること。さらに情報公開を通して学校教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

## (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育目標、特色、校長名、所在地および連絡先、沿革、学生数
(2) 各学科等の教育	教育目標、取得目標資格、合格実績、就職状況、進級の要件、卒業の
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援等
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動(クラブ活動)
(6) 学生の生活支援	生活支援、資格取得
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援(奨学生制度など)
(8) 学校の財務	学園財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価公開
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3) 情報提供方法

ホームページ

URL:<http://www.ohara.ac.jp/info/pdf/zaimu.pdf>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程行政法律科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			商業簿記	基本的な財務報告書類の作成方法の習得を目的とする。決算整理を中心とした会計処理および勘定形式の報告書類作成方法を学ぶ	1 通	108		○	△		○		○		
○			会計	株式会社会計の基本理解を目的とする。株式会社を前提とした一般的な企業取引に対する会計処理を学ぶ	1 通	108		○	△		○		○		
○			工業簿記	工業経営に必要な、財務処理の習得を目標とする。製造業における利害関係者への記録と報告方法を学ぶ	1 通	108		○	△		○		○		
○			原価計算	製造業における製品や、サービスの原価を計算する技術の習得を目的とする。経営管理者の経営管理に貢献する書類の作成技術を学ぶ	1 通	108		○	△		○		○		
○			民法	私法の一般法と呼ばれる民法の基本理解を目的とする。私人間における様々な法的問題点を条文、判例を中心に学習する	2 通	72		○	△		○			○	○
○			労働法	労働法の基本理解を目的とする。勤労の権利や労働基本権を条文、判例により学習する	2 通	72		○	△		○		○		
○			憲法・行政法	憲法や行政法の基礎理解を目的とする。基本的人権や行政の組織及び作用を条文、判例により学習する	2 通	72		○	△		○		○		
○			一般教養	一般知能および人文科学・社会科学・自然科学の基本的知識を様々な角度から、相互に関連させながら学習し、幅広い教養を身につけること目指す	1 2 通	574		○	△		○		○		
	○		税法一般	国民生活と税との関係、税が果たす役割を様々なケースに応じて学習する	2 通	144		○	△		○		○		
	○		法律一般	政治分野と法律学の基本概念を具体的な事例をケーススタディすること身につけることを目指す	2 通	144		○	△		○		○		
○			コンピュータ 実習	企業で必要とされるWord、Excel、PowerPointの操作方法を身に付ける。校内のPCを利用し実践的なトレーニングを実施する	1 2 通	216		△		○	○		○		

○		文書実務	時事問題や社会問題を題材に、論理的。合理的な思考を鍛え、社会人として必要な文章作成力・表現力を培う	2通	72		○	△		○	○				
○		ビジネス実習	社会人に求められるビジネスマナーを身に付けることを目的とする。就職活動で必要とされる立ち居振る舞いを中心にトレーニングを行う	2通	144		△		○	○		○			
	○	一般常識・倫理	ビジネス実務の基本とコンプライアンスの基礎を学習する	1 2通	360		○	△		○		○			
	○	基礎体育	公安系の職に就くことを想定し、体力の持続方法、筋力、バランス、体幹の知識を学び実践する	1 2通	360		○	△		○		○			
		合計		15科目		2,662単位時間									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
所定の課程を修了し、試験等に合格した者について、平素の成績及び性行を斟酌して決定する		1学年の学期区分	3
		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。